ヲ
62
ゆ

教育淡海作文の友

緒言

作文と稱しまするは我が意中におもうところと文字よりて筆記す事で畢竟言語を以て談論する代用よなるものであります抑言語を以て我がおもうところを談論するといふことは一方の人と出會ひた時よ限ることで若も出會はないまゝで此方の思想を那方へ通じたいとおもふか廣く世間へ知せたいとおもうときは是非とも文字に筆記して見せるの外はありませぬ這樣論しますると口頭で談論するとはりを筆頭で書記しさへすれば直と作文の主意よ合

九岐晰著

ふものだといふやうよ聞ゐるかも知れませぬが日本でい今日口頭で談論する時と筆頭で書記す時は自然と其の間に差別がありまして如何云ても口頭で言ふとほりの事を筆頭で書いたバかりでは通じかねることがあります例へバ一方の人と面會ひた時其處よ在る物を指しておきのどくさまですが云ばらくそのかまをおかりまをしたいものですがと言へば現在其の物品を指點して言ことであります すからそのかまとばかりでも通じますけれども隔離れて在て書簡でそれを價りるよい是非釜か鎌か判るやふよ書いて遣らなければ通じますまいですから是非作文も一とほりは學バなければなりませぬ

特64
611

目次

○思想と通じ易く書くべし　○「てよをわ」を正しくせよ
○用を辨ずるを主意とせよ　○符號に誤謬あれバ意通せず
○簡より繁に進め　○肚裏に作りて後筆にて記せ
○無用の事項を雜ふ可らず　○言簡よして意足るを佳とす
○根なき草木よは花開かず　○高尚の文のみ文よ非ず
○疑はしき字を用ふ可らず　○文字足らざるも亦不可なり
○可及的文字の重複を避けよ　○文を作るにも亦練習を要す

以上

ふものだといふやうよ聞くかも知れませぬが日本でい今日口頭で談論する時と筆頭で書記す時は自然と其の間に差別がありまして如何云ても口頭で言ふとはりの事を筆頭で書いたバかりでは通じかねることがあります例へバ一方の人と面會ひた時其處よ在る物を指しておきのどくさまですが云ばらくそのかまをおかりまをしたいものですがと言へば現在其の物品を指點して言ことでありますからそのかまとばかりでも通じますけれども隔離れて在て書簡でそれを價りるよい是非釜か鎌か判るやふよ書いて遣らなければ通じますまいですから是非作文も一とはりは學バなければなりませぬ

特64
611

目次

○思想と通じ易く書くべし　○「てよをわ」を正しくせよ
○用を辨ずるを主意とせよ　○符號に誤謬あれバ意通せず
○簡より繁に進め　○肚裏に作りて後筆にて記せ
○無用の事項を雜ふ可らず　○言簡よして意足るを佳とす
○根なき草木よは花開かず　○高尚の文のみ文よ非ず
○疑はしき字を用ふ可らず　○文字足らざるも亦不可なり
○可及的文字の重複を避けよ　○文を作るにも亦練習を要す

以上

○思想を通じ易く書くべし

前の緒言よも論しましたとおり我がをもふことを隔離れて居る人の許へ言ひ遣るよはたゞ談話するやうに書いたばかりでは意味の通じかねるものでありますから文を作るには可及的其の意味を人に通じ易くさせることを主意にしなければなりませぬが抑又意味の人に通じ易と通じ難いは時代と人物よ依ることで今日直と我が親族か朋友に看せるために書く文と後世まで廣く天下公衆に看せる文とはおのづとそれだけの差別がなくてはならないわけです其は何故だと論しますと時代に從れて多少言語が變りたり土地が異へば風俗も異ひたりするからです

○「てにをは」を正しくせよ

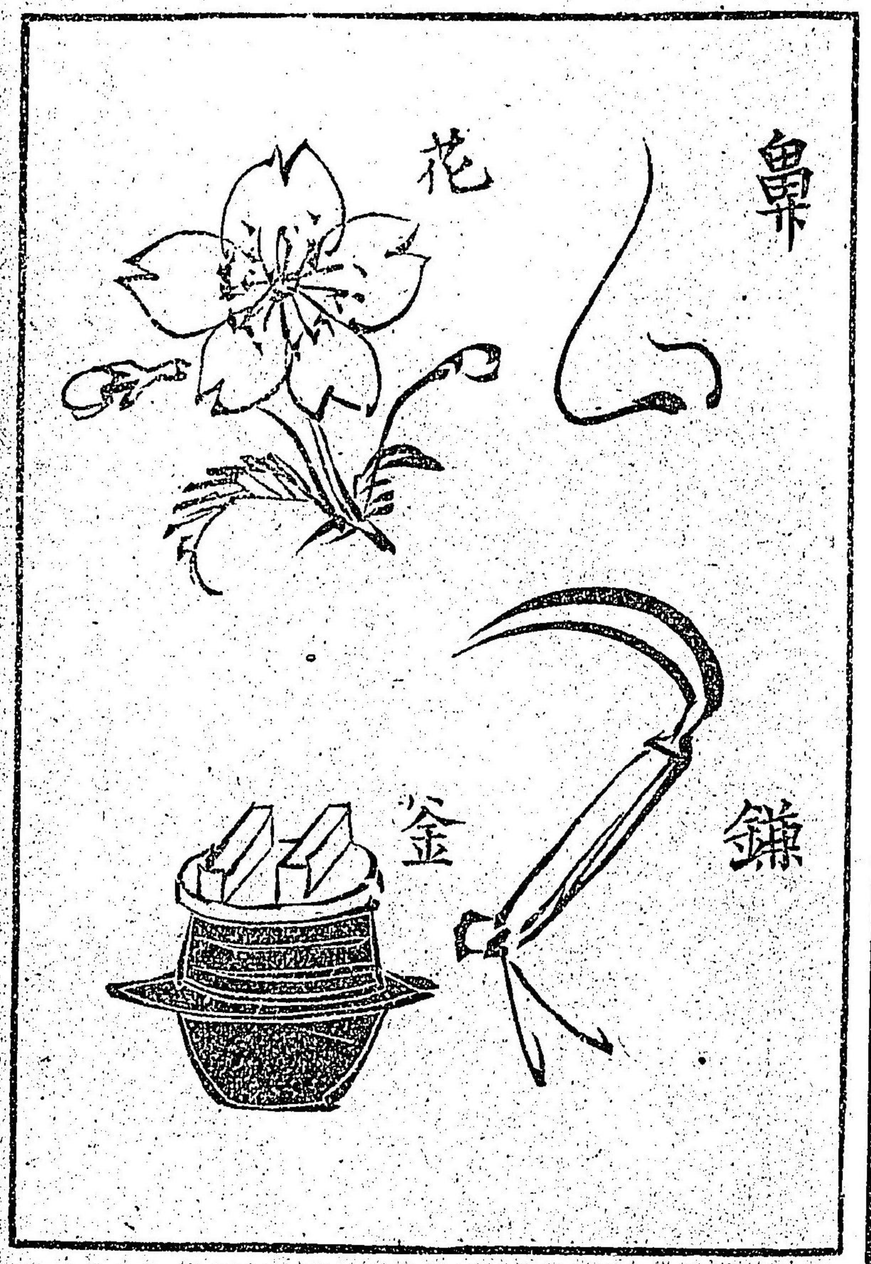
口頭で談論するよもてにをはの別ご正しくなくてい意味の通じかぬるものでありますが況て文章の上でい此のてにをはばかりを標識よして前後の關係を理解けるので若もてにをはご正しくなからうものならそれこそ何が何だやら毫も意義の解らない文章よありて了ひます然かといひて其の毎次に面會ひて其の文の意味を質問するくらゐならべ寧文章のない方が勝だと論さなければならない理で畢竟文章の効用いでございませぬですから何でもてにをはに意を注けるが肝腎ですが近來の文章よい往々其と誤へたのがありますよくおきをおつけなさい

○用を辨ずるを主意とせよ

文章を作るゝ前よも論したとほり口頭で談論する代りよ筆頭で書いて自己の思想を人に知せるのが主意でありますから可及的無用な文字を臚列べないやうに而して用の充分に辨じるやうにしなけれべなりませね益「助語」と稱して和文でいへバ「けり、たり、にき、けん、けめ」などの類又漢文でいへば「也、矣、焉」などの類ゝ事の過現未の差別を立てたり物の眞確不直確を示すためよ必要の語で決して無用な文字とは稱されませぬが例へば桃の花は春開くものにして其花の色には紅白數種ありといふ文があるとしたら下の花といふ字は無用でせう考へてご覽なさい

○符號に誤謬あれば意通せず

文字は畢意言語の符號であるといふことは屢説示いたしましたが若も文を作る時我が思想を筆記すに誤ひた符號を使へば那方では其の符號を看て此方の思想を察しますから直ち物の齟齬が出來て用の辨じないことになりて了ひます現ち著者は人から「水雨入用ち付御送り下された」といふ書簡を寄されたことがありましたが其の時發信人は病中で藥を服みでゐることを聞きましたので此の「水雨」へ多分「雨水」の誤であらう「雨水」は蒸餾水の代りに水劑ち用ふからとおもひて蒸餾水をわざ〳〵送りて遣りましたが後で聞けば「水飴」の誤でありたさうです



○簡より繁に進め

文を作るは初學から繁雜りた事を書かうと思ひまするとも理義の解らぬ支離滅裂の文になりて而して主要の用は辨じないやうになるものでありますから文章を巧妙に作れるやうはなりたいと思ひたら何でも簡短な文を誤謬のないやうに作り習ふのが最上乗です簡短は書いて意味の通じるやうはさへなれば長い文や繁雜りた文も次第に作れるやうになりますが初學から繁雜りた文を作らうと思ひて習ひくさしたのは何時までも意味の通じる文の作れるやうにはならないものです此い教育上何人でも知りてゐる論ですご深く意を注けなくてはなりませぬ

○肚裏に作りて後筆にて記せ

前にも屢論示したとほり文章は自己の思想を文字に筆記するものでありますから一字一句も我が肚裏よりない事い書ける理がございませぬが學校で教師に課題を出されたり他から書簡でも寄されたりすると如何書いて好やら未肚の裏で考案の着きもしない前から漫に筆を招りて試る人がありますす這般な人いかならず紙を徒費ようするばかりで立派な文章の出來るきずかひはありませぬですから諸君も文章を書かうと思ひたら腹稿と稱して先肚の裏が一とほり考案を着けてそれから筆をとりて紙へ書くやうにするがよろしうございます

○無用の事項を雑ふ可らず

文章を作るよ今言はうとする事項に關係もない無用な事を添加へるゝ實よつまらぬはなしで其を讀む人よりて何が肝腎の主意だやら何が附加だやら分別のつかないやうになりて了ひます例へば商家などの間で米の目下の時價をきゝあはせるに只目下の米價幾何はどにしゝ哉と書いて用の足りることにわざゝゝ今年は兎角氣候不順の爲當地よ於てゝ農作物の收穫如何哉と苦慮罷在りしゝ付ていゝ目下の米價御報知下され度しゝなどと無用な事を書くと事情によりては却て實の時價を聞出すことが能なからうかといふ虞があるくらゐです

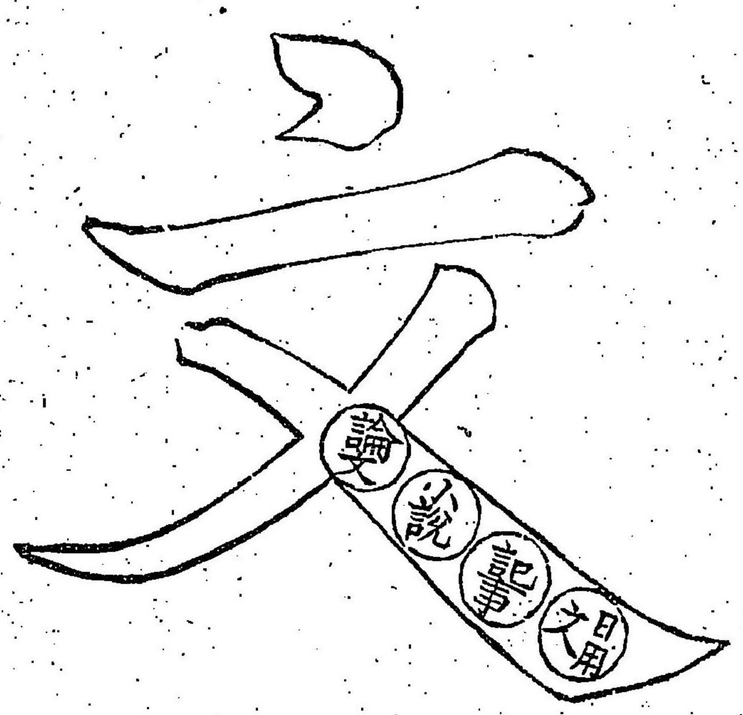
○言簡にして意足るを佳とす

只閑談を聞くよさへ言語數ばかり多くて其のわりあひに意義の判明しないのゝ何となく興味の薄いやうにおもひて倦厭の來るものでありますが況て文章は口頭から直と耳へ傳へるのと異ひて言聲もなし面貌もなしよ唯其の意味を明めるばかりを目的よ讀むものですから言が多くて而して意義でも判明しなからうものならそれこそ全讀む意にはなりませぬそれゆゑ古來文意は語の簡約で意味のよく足りて在るのを好といたしてありますそれは恰果物殼と實のやうなもので殼の小くて實の充分ある方が人よも貴ばれる理です

○根なき草木には花開かず
根のない草や木よ花の開いた例いありませぬが文章もそのとはりで學識のない人には決して作れる理はございませぬから文章といふ花を美しく開かせたいとおもひたら是非とも學識といふ根を充分肥すやうよしなければなりませぬ抑此の學識といふ根を肥すには勉強といふ肥料が必要物です此の肥料を施りて學識といふ根を培養さへすれば草木と異ひて那樣な花でも自由自在に開かせることの得るもので決して櫻樹に梅花を開かせることとい能ないといふやうな窮屈なことはありませぬ諸君も請此の學識といふ根を肥して美しい文章の花をお開かせなさい

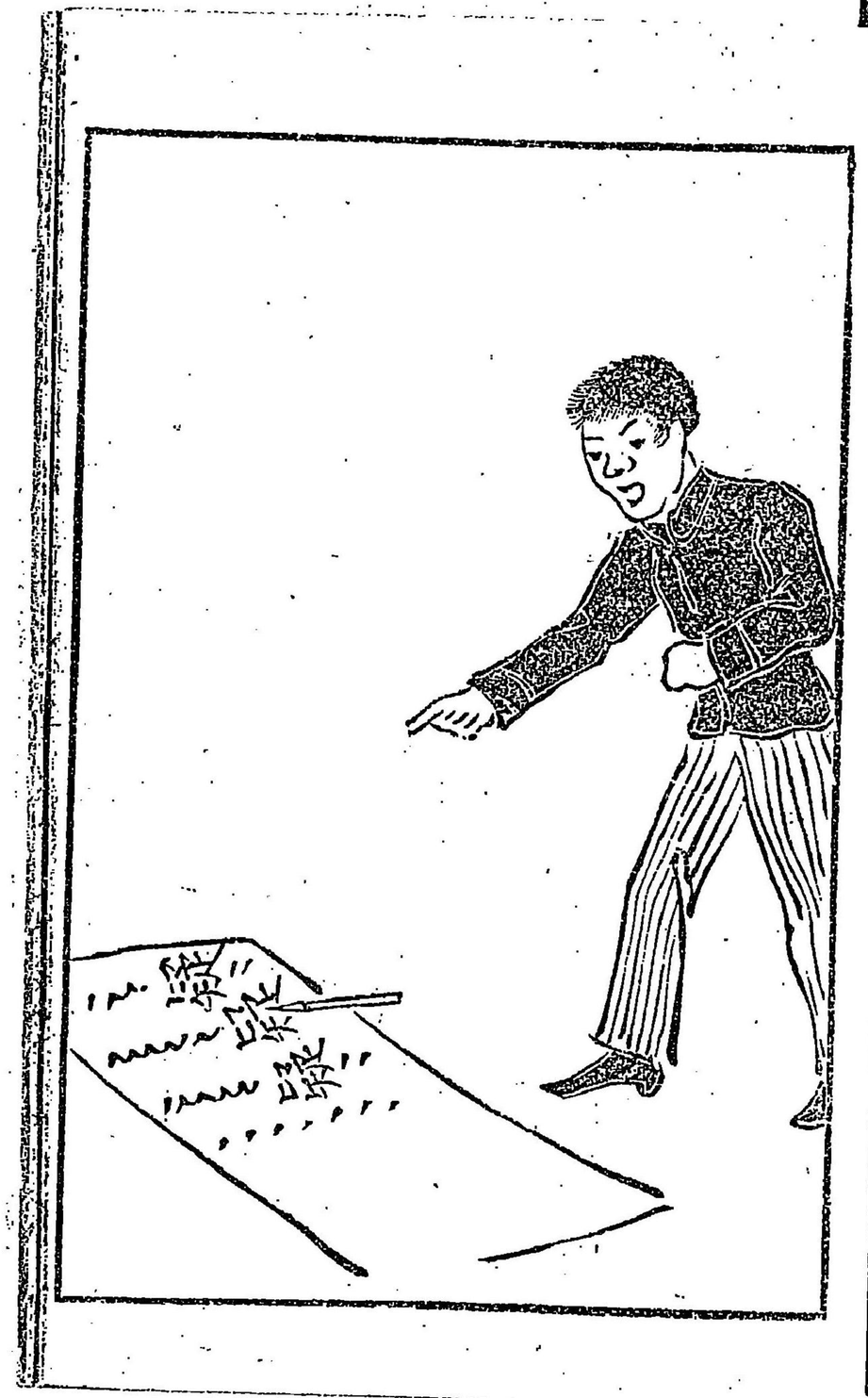
○高尚の文のみ文よ非ず

今の人にハ兎角平易文を輕めて高尚文を重くする癖があるやうに思はれますが是は大な謬見であります何故なれば文章の價値は其の作り方の巧妙拙劣よりて定めなければならず又其の巧妙拙劣は意義のよく通じる通じないによりて判別あければならないもので決して其の文體の平易と高尚を標準にして甲乙の差別を立てるはずのものでハありませぬして觀まするといくら高尚さうな文體に書いてあらうとも意味の充分でない文章ハ究竟些の價値もない無用文字で平易文體よ書いた文章でも意味の充分なのを好いとしなければなりますまい



○疑はしき字を用ふ可らず

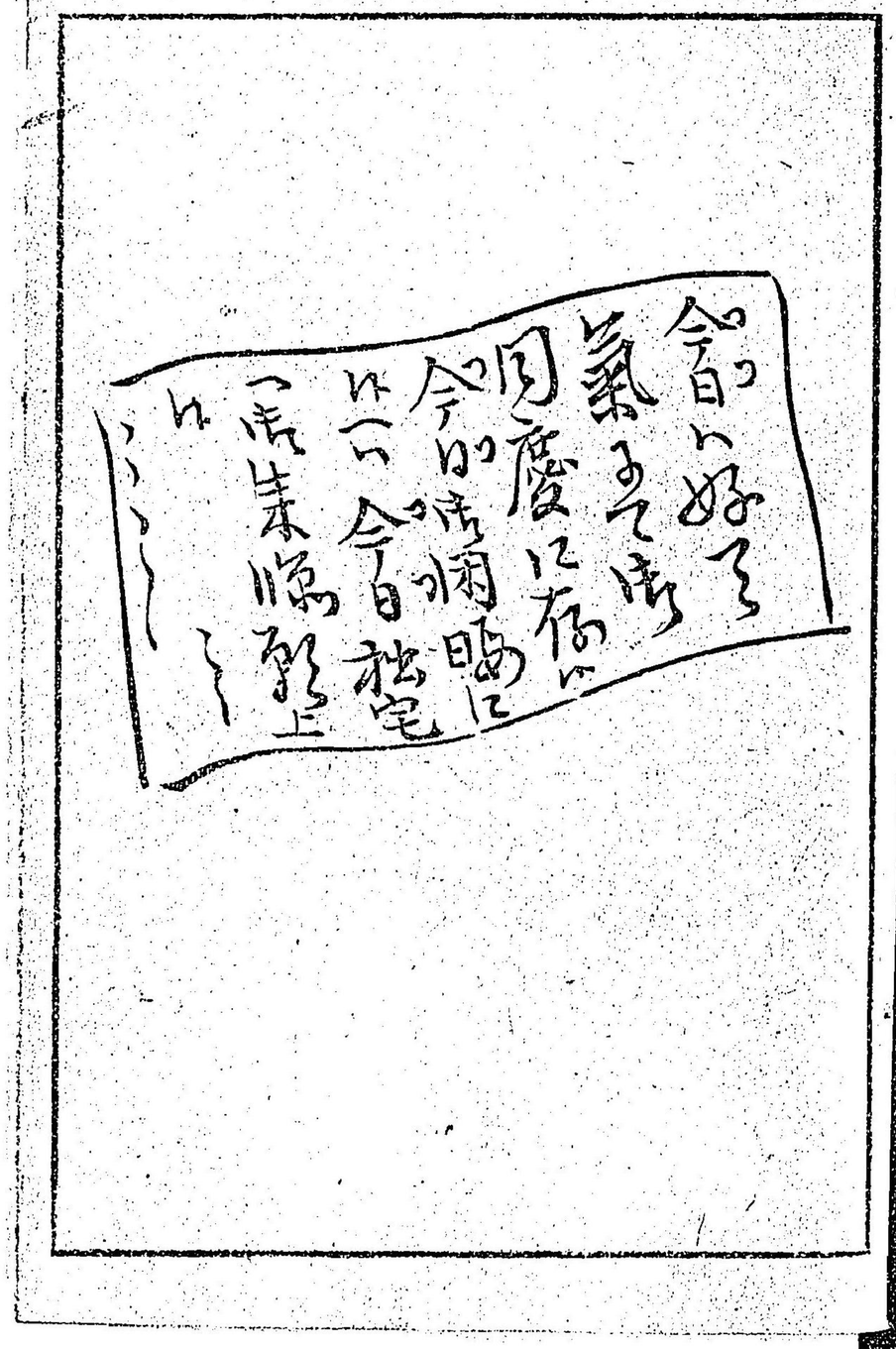
故意に奇しい文章を作らうとするために自己にさへ疑はしいとおもふ文字を用ひて外觀を飾りたり人に見せて誇負するなどゝ實に愚の至で決して文章を作る目的を知りた人とゝ稱されませぬ何故なれば文章い元來意味の人に通じるやうに書くのが第一の主意でありますから何人に見せても自己の思想のとほりの意味に理解れさへすれば事の足りる理で文字の奇しい奇しくないい固より其の價値を輕重するだけの力もなし況て疑はしい文字を用ひて若も誤ひてゞもゐたら却て肝腎の意味を理解り難くするまでのことでいありませぬか



○文字足らざるも亦不可なり
文を作るに贅長な文字を多く用ふるのは却て其の文章の意義を解り難くするものだといふことは前よ論しましたが然かといひて文字の足りないのも亦意義の通じかねるものであります例へバ臥具を借りたいと思ひて書簡を人の家へ遣るよ遠方より來客にて入用に付御氣の毒ながら夜具拜借致し度御許諾よしはゞ使の者へ御渡し下さるべくしと書いてありましたら幾人分とか幾枚とかいふ文字の足りないために那方でもそれを判斷するに窮り此方でも夜具の數が剩りたり足りなかりたりして困ることがあらうとおもいれます

○可及的文字の重複を避けよ

一編の文章の中で同一文字の幾回も重複りてゐるのい實よ見苦しいものでありますから使はなくて用の足りる處よい可及的同一文字を使はないやうよするがよろしうございます例へバ人い動物中の最高等に位す人は魚類の如く鰭を有せず又人い獸類の如く蹄を有せずと雖人い能く舟車を造りて水を航り陸を走るといふことを文章に作るにも人は動物中の最高等よ位するものにして魚類の如く鰭を有せず獸類の如く蹄を有せずと雖能く舟車を造りて以て水を航り陸を走るを得と書いて人といふ字の重複らないやうにすれバ見苦しくないでいありませぬか



○文を作るよも亦練習を要す

文を作るにい學識を根本としなければならないものだといふことは前に論したとはりであります抑學識があり て文字を知りてさへ居れば文い何時でも巧妙よ作れるものかといへば決して然ばかりはまるりませぬすべて何事をするよも練習と稱して其の事よ熟れなければ巧手には なれないものでありますが文章を作るにも猶此の練習が必要で若も練習を疎にして置きますと縱其の根本となる學識はありても文字を知りて居ても巧妙な文章は生涯作れないで了ふやうなことになりますから何でも練習に力を用れなければいけませぬ

明治廿四年二月廿八日印刷
明治廿四年四月十五日出版

著者　東京府平民　九岐晰
東京市芝區通新町十三番地

發行者　尚樂堂　小川寅松
仝　京橋區南紺屋町壹番地

印刷者　文英舍　高田重助
仝　仝　區新肴町十四番地

版權所有

教育談海目錄

一教育談海修身の友　全壹冊
一教育談海算術の友　仝
一教育談海衛生の友　仝
一教育談海立志の友　仝
一教育談海作文の友　仝
一教育談海史學の友　仝
一教育談海教育の友　仝
一教育談海習字の友　全壹冊
一教育談海博物の友　仝
一教育談海地學の友　仝
一教育談海讀方の友　仝
一教育談海壽學の友　仝
一教育談海理學の友　仝
一歷史教訓毛利元就遺訓圖
一歷史教訓楠公父子訣別の圖
一歷史教訓美濃樵夫泉を浚の圖
一歷史教訓小松內府父清盛を諫むるの圖　仝
一歷史教訓小楠公歌を如意輪堂題する圖　仝

石版二度摺縱一尺二寸五分横尺六寸五分

特約賣捌所

東京通四丁目　春陽堂　仝通四丁目　金櫻堂
仝　横町　明進堂　仝横山町三丁目　辻岡屋
仝本石町貳丁目上田屋　仝馬喰町貳丁目　山口屋
仝淺艸三好町　大川屋　仝小傳馬町三丁目　近園
越後長岡　目黒　大坂心齋橋安土町　積善館
信州善光寺　小升屋　仝心齋橋南　中村芳松
仙臺國分町　藤高　仝順慶町四丁目　斉村庄介

7
62
女

079099-000-6

特64-611

作文の友

九岐　晰／著

M24. 4

DAC-3017